

2014 年度看護実践開発研究センター開講式

## 学長挨拶

「2014 年度認定看護師教育課程〈緩和ケア〉〈認知症看護〉の開講式」に際しまして、山梨県福祉保健部医務課看護指導監 市川敏美さま、山梨県総務部私学文書課長補佐 掛川浩正さま、社団法人山梨看護協会会長 藤巻秀子さま、看護学部同窓会白樹会会長 山本美代子さま、その他県内外の医療関係者のご来駕を賜り、ありがたく厚くお礼申し上げます。

さて、山梨県立大学看護学部附属看護実践開発研究センターは山梨県内医療関係者等の輿望を担って「認定看護師の育成とその後の支援」を主要な使命として2010年9月17日に開設、翌2011年6月1日第一回開講式を挙行いたしました。今日はその第4回目の開講式であります。過去3年間、社会的要望の最も多かった「緩和ケア」に焦点を絞って養成を行なってきました。この間、認定看護師資格を取得された修了生は53名（年内にはほゞ80余名）の多きに上り、全国各地の医療機関で活躍しております。

緩和ケアにつきましては引き続き社会的要請が厳然として存在してはいるものの、日本全体としてもまた山梨県地域に限定しても「老人看護」に係る高度な看護実践者の養成もまた喫緊の課題であります。そこで、今年度は過渡期として「緩和ケア」と「認知症看護」の両認定看護師教育課程をパラレルに運用することと致しました。関係教職員には多大な負担がかかりますが社会的要請にこたえて、あえて実施に踏み切った次第であります。

今さら言うまでもなく、日本の人口高齢化率は2013年現在23.3%と歴史上最大値にあり、過去1年間の伸び率も0.3%とそのスピードは過去のいかなる時代にも経験しない、実に稀有な状態にあります。ちなみに、人口問題に関する国連の扱いでは、人口の7%の高齢化率をもって「高齢化社会」と定義しておりますが、我が国の高齢化社会化は早々と1970年に達成され、それが1994年には倍の14%を突破して「高齢化の化」が取れて「高齢社会」に入り、2007年にはついに21%を超えて「超高齢社会」に入りました。

国立社会保障・人口問題研究所の予測に従えば、2030年には31.6%に、更に2060年には39.9%≒40%に達するとされております。これはもはや何と呼ぶか、「極超高齢化社会」とでもいうのでしょうか？

当然のことではありますが、この高齢化の進行に伴ってさまざまな加齢に係る疾病が増大し、これが国民医療費の増大につながっていることはすでによく知られているところであります。特に、認知症に係るさまざまな問題は昨今のマスコミでも取り上げられているところであります。厚労省調査によれば日常生活自立度 2 以上（認知症症状を呈しているが他人の支援の下で自立できる程度のレベル）の総数は 2012 年現在で 280 万人でしたが、今日現在 305 万人いるのではないかと推定されています。しかも推計によれば 2020 年には 410 万人、2025 年には 470 万人と驚異的数字が予測されております。

溝口健二監督の秀逸な作品『東京物語』、尾道に住む老夫婦が、東京に出て行った長男長女に招かれて夜行列車に揺られて会いに行くものの日々の生活に追われている子供らからは心ならずも粗略に扱われ、他人である戦争で死んだ次男のお嫁さんに心を残しながら尾道に戻っていく話。この映画がつくられたのが 1953 年。朝鮮動乱景気にあおられるように人々は大都会へ吸い寄せられていき、家族の世代間の連続性がまず空間的に途絶し、ついで時間的に断絶していく端緒になりました。この映画はそんな時代の瞬間を切り取って描いている点で時代の生き証人になりました。これ以後、家庭が老いた両親を養介護する機能を事実上喪失するようになっていきました。

先ごろ群馬県館林市で発見された老婦人は警察が彼女のパジャマのズボンに夫が書いておいた「ミエコ」の名前をうかつにも「エミコ」と記録してそれを全国で紹介していたために夫の願いもむなしく 7 年間行方不明となっていたという痛ましい事件が表面化しました。また、愛知県大府市では、91 歳になる認知症の男性が線路内に侵入して轢死しましたが、あろうことかこれに対して鉄道会社は甚大な損害を蒙ったとして巨額な賠償を要求し、これに懲えて名古屋高裁はその妻に 360 万円支払えと判決した、などということも話題になりました。冷たい社会に放り出された認知症患者の社会的扱いがいま改めて重大視されています。

「**夫の裡に戦争いまだ終わりなく行軍と云ひて徘徊する夜半**」 波村千代女  
『朝日歌壇』に掲載された一首です。認知症患者には重い人生が隠されていることが分かります。それだけにこの疾病には専門職としての技術が必要です。そういう中にありながら認知症看護の認定看護師養成は緒についたばかりであって、今年 1 月現在全国で 343 名しかまだ認定されていない状況であります。今日このコースに入学された皆さんは、この領域のパイオニアであります。ご健闘を大いに期待したいと思います。

また、「緩和ケア」コースを選ばれた皆さんは、本学としては十分な経験と実績を有しております。思う存分学んでコースを完了されますことを期待しております。

最後に、受講生のみなさんのご健闘を心から期待し、またご参列の皆さんの絶大なご支援をお願い申し上げて、楚辞でございますが学長挨拶にかえさせていただきます。

ご清聴、ありがとうございました。

2014年6月2日  
公立大学法人山梨県立大学学長  
伊藤 洋